ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学　健康科学部　人間コミュニケーション学科

教授　瀧口　綾○○　○○

1. 教育の責任

大学全入時代を迎え大学教育の質が問われて久しい。

全国に多数の大学が存在する中、本学を選択してくれた学生本人やその家族に感謝するとともに、大学には、学生の学び及び学生本人の選んだ進路に進めるようサポートしていくことが求められる。

全国的な基礎学力の低下も叫ばれる時代において、それぞれの学生に合った学びを用意し支えていく方法も検討が必要であろう。併せて社会人としての基礎的な力も身につけて送り出す必要性もある。

私は健康科学部の人間コミュニケーション学科/福祉心理学科の教員として、専門科目を中心に担当している。人間コミュニケーション学科/福祉心理学科は、民間企業への就職及び社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の 3 つの対人援助職を目指すことができる。その中でも私は公認心理師養成科目の一部を担当している。直近の過去 2 年間の担当と授業科目は以下のとおりであり、各授業のシラバスは健康科学大学のホームページ上で公開されている。

主要な担当科目は、人間の基礎を学ぶコミュニケーション論や発達心理学など、また対人援助について学ぶ臨床心理学概論/臨床心理学などである。

2021 年度

科目名	時期		受講者
発達心理学	1 年/2 年/3 年後期	必修/選択	34
人間関係論	2 年後期	必修	3
コミュニケーション論	1 年/2 年後期	選択	63
児童心理学	3 年前期	必修/選択	14
臨床心理学概論	1 年前期	必修	27
臨床心理学	2 年/3 年/4 年前期	必修/選択	20
臨床発達心理学	2 年/3 年前期	必修/選択	26
心理療法Ⅱ	2 年/3 年/4 年後期	選択	13
心理面接法	3 年/4 年後期	選択	7
臨床心理学	2 年/3 年/4 年前期	選択	15
福祉心理学専門演習Ⅰ	3 年前期	必修	5
福祉心理学専門演習Ⅱ	3 年後期	必修	5
福祉心理学専門演習Ⅲ	4 年前期	必修	5
福祉心理学専門演習Ⅳ	4 年後期	必修	5
福祉心理学基盤演習Ⅰ	1 年前期	必修	14
福祉心理学基盤演習Ⅰ	1 年後期	必修	2
福祉心理学基盤演習Ⅱ	1 年後期	必修	14

2022 年度

科目名	時期		受講者
発達心理学	1 年/2 年後期	必修/選択	69
リハビリテーション特別講義 II	1 年/2 年/3 年後期	選択	92
コミュニケーション論	1・2 年後期	必修/選択	68
ホスピタリティコミュニケーション	1 年後期	選択必修	31
臨床心理学概論	1 年/2 年前期	必修	36
臨床心理学	3 年前期	必修	5
ジェンダースタディーズ	2 年後期	選択必修	27
臨床発達心理学	3 年/4 年前期	必修/選択	9
心理療法	3 年/4 年前期	必修/選択	9
心理面接法	3 年/4 年前期	選択	20
卒業研究	4 年通年	選択	2
臨床心理学	3 年前期	選択	1
福祉心理学専門演習 I	3 年前期	必修	3
福祉心理学専門演習 II	3 年後期	必修	4
福祉心理学専門演習III	4 年前期	必修	5
福祉心理学専門演習IV	4 年後期	必修	5
福祉心理学基盤演習III	2 年前期	必修	14
福祉心理学基盤演習IV	2 年後期	必修	13
コミュニケーション演習	2 年後期	選択	1

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

1) 健康科学大学リハビリテーションクリニック　心理士
2) 山梨県インクルーシブ教育推進事業　外部専門家（心理士）
3) 西桂町発達相談支援事業　心理発達相談員
4) 大学広報委員
5) 安全衛生委員（衛生委員）

1）の臨床活動においては、東部・富士北麓地域の住民の方々への小児心理臨床の相談業務を行っている。こうした相談活動は、面接を通した臨床の感覚及び臨床心理学概論・臨床心理学、心理的支援法などの講義において、公認心理師を始めとした対人援助職を目指す学生の学びに還元することができる。2）に関しては、特別支援学校に在籍する児童・生徒及び特別支援学校のセンター的機能として、地域校における児童・生徒への支援に対しへの支援、

また先生方や保護者に対する専門的な立場からの助言や援助を行っている。このようなコンサルテーションの実践は、コミュニケーション演習など公認心理師を目指す学生に必須となる講義においても有益な学びを提供できる。また保護者や児童・生徒の面接においては、初対面の保護者や子どもといかに短い時間で信頼関係を構築して心の中にある困り感を語ってもらうかが重要である。このスキルは公認心理師などの対人援助職を目指す学生のみならず、コミュニケーション論やホスピタリティコミュニケーションなどのコミュニケーションに関する講義でも有益に働き、学生に還元することができる。3）の臨床活動においては、就学前の母子の発達相談を行うことにより、子どもの発達状況のアセスメント、保護者の子どもの成長・発達に関する理解の促進や保護者を支えエンパワメントすることなどの支援について、公認心理師を目指す学生に還元することができる。

2. 教育の理念・目的

本学は、これからの福祉社会の発展に寄与するために、様々な複合的問題に立ち向かうことができる問題解決能力を備えた人材の育成を目指し、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の三つを兼ね備えた人材を育成することが本学の使命であるとしている。

社会人として、一定のコミュニケーション力を身につけ、自分自身に誠実であり、人に対する深い理解と尊敬の念を持ち、広い視野で多角的に物事をとらえ、多様性を尊重する姿勢を身につけるとともに、公認心理師養成の教育において、専門的な知識・技術力の習得だけでなく、他者や他職種と協調しながら、主体的に行動できる人材を養成することを教育の中心に置いている。

1）社会人としての基本的な力の体得

社会人として、自分自身に誠実であり社会の中での自分の役割がわかり、責任感を持って主体的に行動できることが大事である。社会に出てからは正解のない課題に取り組まねばならず、一人では解決できないことや他者と協働することを求められる。

自分一人では解決できないことも、他者と協力しながら取り組むためのコミュニケーション力を身につけることが重要である。グループワーク等の授業を通して、他者を尊重しながら自分の考えをわかりやすく相手に伝えること、必要に応じて他者の助けを求められることなど学生自身の主体的なコミュニケーション力を向上させることが必要となる。

2）心理カウンセリングの魅力を伝える

公認心理師としての知識やスキルを用いて、主体的に他者の役に立つことができる人材を育成する。人間理解に必要な科目や面接のスキルのような専門的なスキルを深める演習科目などを通して、公認心理師を目指す者としての自分の課題に目を向けつつ、改善方法をイメージできるように、これまで臨床現場で培った知識とスキルをわかりやすく伝

えていく。

3. 教育の方法

教育の機会については、講義のみならずあらゆる場面で必要に応じて展開していくことが可能である。授業開始及び終了時の挨拶の実施や遅刻や欠席など生活態度についても指導していく。

・Teams を活用した授業の工夫

過年のコロナ禍の影響により、Microsoft の Teams が導入され、一部講義にて遠隔授業が開始された。Teams 機能を利用した授業、ブレイクアウトルーム機能を活用したグループでの意見交換等に加えて、復習を兼ねた定期試験の模擬問題を Forms 機能を活用してクイズ形式で実施した。Forms 機能はスマートフォンでの活用もしやすく、取り組みやすい機能だと認識している。

・現場に即した実践的授業

心理療法や臨床心理学概論・臨床心理学などの臨床場面での実践に関する内容を扱う科目では、短いものではあるが事例を用いて臨床活動の実際を学べるようにしている。

・グループワークでの意見交換

担当しているほとんどの授業においてグループワークを導入している。担当教員から与えられたテーマについて小グループで検討し、各グループ代表者に発表してもらう。他の人の意見を聞き視野を広げること、意見の違いの受け止め、意見交換などコミュニケーション力の向上も重視している。グループを決める際は、なるべく他学科の学生と交流できるよう配慮することで、コミュニケーション力の向上及びグループでの話し合いが雑談で終らずしっかり意見交換ができるようにした。

4. 教育の成果・評価

授業評価アンケートを活用して、実際に得られている効果や授業内容の反省点を振り返り、改善に活かすことができる。また授業後、毎回リアクションペーパーの提出を求め、コメントの内容や疑問に思った点等を分析し、次年度のシラバス作成に活かしている。

・臨床心理学概論/臨床心理学

臨床場面での支援に関して専門知識や技法を学ぶため、理論及び技法の紹介のみならず、なるべく体験できるよう工夫した。その結果「実際にいろいろな心理療法を行ったりして楽しかった」「自分の体験を結びつけることができる授業内容でもあったため、意欲的に取り組むことができた」などの好意的な反応が得られた。また体験の方法も、

各自でワークシートを活用する、ペアでロールプレイを行う、グループで意見交換をするなど、その都度扱う療法の内容や体験のしやすさを考慮し、体系を変えて行った。

また、前回の授業で提出してもらったリアクションペーパーの内容及び質問について、次回の授業の冒頭で取り上げ、コメントを行った。授業冒頭の 15 分程度の時間をコメント時間に費やすのだが、「前回の授業の振り返りや質問に対する答えが、次回の講義の冒頭で行われるのはよいと感じた」「質問に対する答えが返ってきて理解が深まった」などの意見を得ることができた。毎回コメントを行うのは準備に時間と労力を費やすため、毎回実施できたわけではないが、学生の反応から今後も引き続き継続していきたいと考えている。

・コミュニケーション論

全 8 回の講義であり、3 学科の学生が履修していた。60 人以上と人数が多く、コミュニケーションをグループワークやペアワークなどの体験を通して学ぶための工夫が必要であった。講義の前半で基本的な知識や理論について講義し、後半で体験を通して学ぶという構成をとった。グループ構成はなるべく、同じ学科の学生で固めないこと、3 学科の学生が混ざるように工夫を行った。その結果「他学科の学生と仲良くなれて嬉しかった」「先生が中心というわけでなく、学生が主体となって学んでいくところが面白いと思った」という記述が見られ、好印象を得た。一方でワーク実施の後の振り返りの時間が十分にとれなかったのが課題として残るので、次年度の授業内容に活かしていきたい。「コミュニケーションについて分かりやすく説明していた」「コミュニケーションが苦手だったけど、少しは得意に近づくことができた」とレベルも学生に合っていたと考える。この科目についても、前回の授業で提出してもらったリアクションペーパーの内容及び質問について、次回の授業の冒頭で取り上げ、コメントを行った。前回実施したワークの振り返りを紹介することが多く、自分の実感と他の学生の体験を比べることができたのは良かった点だと考えている。

5. 今後の目標

短期目標：授業評価アンケートやリアクションペーパーを踏まえた授業内容の改善

授業評価アンケートの内容及び授業後のリアクションペーパーを参考にして、学生の理解を促すような授業改善を行っていく。特に毎回のリアクションペーパーへのコメントの返却、質問へのコメント、前回の授業のコメント及び質問への回答次回の授業で紹介しコメントすること、以上を丁寧に行っていく。授業評価アンケート及びリアクションペーパーは、よりよい授業を行うためのエッセンスが詰まっているものと考える。少しでも長く時間をかけて、分析して授業改善につなげることが必要である。

長期目標：学生のニーズに合わせた学習方法の検討と情報収集

　学生の中には、自分に合った学習方法が見つからず授業参加へのモチベーションが低い者が少なからずいる。そのような学生に対してどのようにアプローチすることが有効なのか考えていきたい。学生への聞き取りを中心に学生との面談を土台として学習方法を探す支援をすること、同時に多様な学生に関する研修会等に参加して役立つ情報を集めていきたいと考えている。